

### 第3次地震被害想定結果の概要

平成13年5月30日  
静岡県 防災局

**建物被害**

阪神・淡路大震災による震度7の強い揺れの地震被害の特徴を反映  
⇒震度6強、震度7の強い揺れの地域では、木造建物の被害が従来よりも増大

県内の建物の総数 150万棟  
内、木造住宅は 92万棟 (61%)

この内、耐震基準強化以前の木造住宅は 59万棟 (64%)  
**耐震基準強化以前の建物は、木造住宅では64%と、依然として多数存在する。**

地震動や液状化による大破被害  
2次 82,000棟 ⇒ 3次 131,000棟 (60%増)

**地震動**

フィリピン海プレートの潜り込み境界は、県中西部の内陸直下では比較的浅いことが分かってきた。

陸域で浅くなる震源断層を追加

A: 1976 石橋モデル  
B: 1978 中央防災会議モデル

西部地区を中心に地震動が増大  
⇒安政東海地震の震度分布の再現性が向上  
⇒浜名湖周辺で震度7～6強  
浜松地域で震度6強

震度7 (27%増)  
2次 103km<sup>2</sup> ⇒ 3次 131km<sup>2</sup> / 7,714km<sup>2</sup>

震度6強 (39%増)  
2次 1,052km<sup>2</sup> ⇒ 3次 1,458km<sup>2</sup> / 7,714km<sup>2</sup>

**その他の主な想定**

- 鉄道や高速道路上で事故が発生すると、1ヶ所で多数の死傷者が発生する可能性 (新幹線1列車の事故で死傷者は数百人) (東名高速道路上の大事故で死傷者は数十人～数百数十人) (また、新幹線1列車で平均800人程度の滞留客(駅や駅間で)の発生の可能性) → 市町村の救出活動には限界
- 海水浴客などの津波被害では、ピーク時には数千人～1万数千人の漂流者の発生の可能性
- 登山客などが取り残され、富士山ではピーク時に7,000人
- 原子力発電所の被害は軽微であっても、住民の不安感から混乱が生じる可能性

**推計被害額 (県内)**

突発地震による推計被害額 26.1兆円

物的被害など直接被害額 20.8兆円  
経済影響など間接被害額 5.3兆円

・22年間の地震対策事業の被害軽減効果 4.8兆円  
・地震予知による被害軽減効果 2.5兆円  
⇒ 2つの効果を合わせると7.3兆円の被害軽減

**人的被害**

- 阪神・淡路大震災の人的被害の発生事例を反映
- 時間帯別の被害の違いを試算

各被害要因別に、

- ・早朝5時、昼12時、夕方18時の3ケースを想定
- ・また、被害が最大となる時間帯の被害も想定

2次被害想定に比べ、死者は1,100人～3,300人増加  
重傷者は6,700人～9,700人増加

木造建物の倒壊件数が増加

2次 死者 2,600人 (380人) 重傷 9,300人 (2,500人)

3次5時 死者 5,900人 (1,500人) 重傷 19,000人 (3,100人)

12時 死者 3,700人 (830人) 重傷 17,000人 (2,700人)

18時 死者 4,000人 (790人) 重傷 16,000人 (2,500人)

( ) 内は予知ありの被害者数

地震が予知されても自宅の耐震性が分からない、津波や山崩れの危険があっても避難しない等から、人的被害が発生

耐震水門や防潮堤の整備などの効果により津波浸水域が減少し、被害が軽減

対象市町村 37市町村

浸水面積  
2次 57.3km<sup>2</sup> ⇒ 3次 37.9km<sup>2</sup> (34%減)

建物被害 (大破)  
2次 4,900棟 ⇒ 3次 2,200棟 (55%減)

人的被害 (死者)  
2次 510人 ⇒ 3次 220人 (57%減)

**津波 (つなみ)**

最新の津波シミュレーション技術の活用  
⇒耐震水門や津波防潮堤の津波防止効果の評価

出火率の減少、耐火性の高い建物の増加及び消防水利など消防力の増強により焼失家屋が減少

焼失建物 (平均的な被害として春秋の昼)  
2次 67,000棟

3次 16,500棟 (75%減)

(最悪時の被害として冬の夕刻)  
3次 58,000棟 (13%減)

**山崖崩れ**  
崩壊危険度 大 2次 1,500ヶ所 ⇒ 3次 2,000ヶ所 (33%増)

ブロック塀・石塀の倒壊  
倒壊数 2次 27,000ヶ所 ⇒ 3次 28,000ヶ所 (4%増)

看板・外壁などの落下物  
落下件数 2次 5,400ヶ所 ⇒ 3次 7,600ヶ所 (41%増)

その他 家具の転倒、道路上への落石

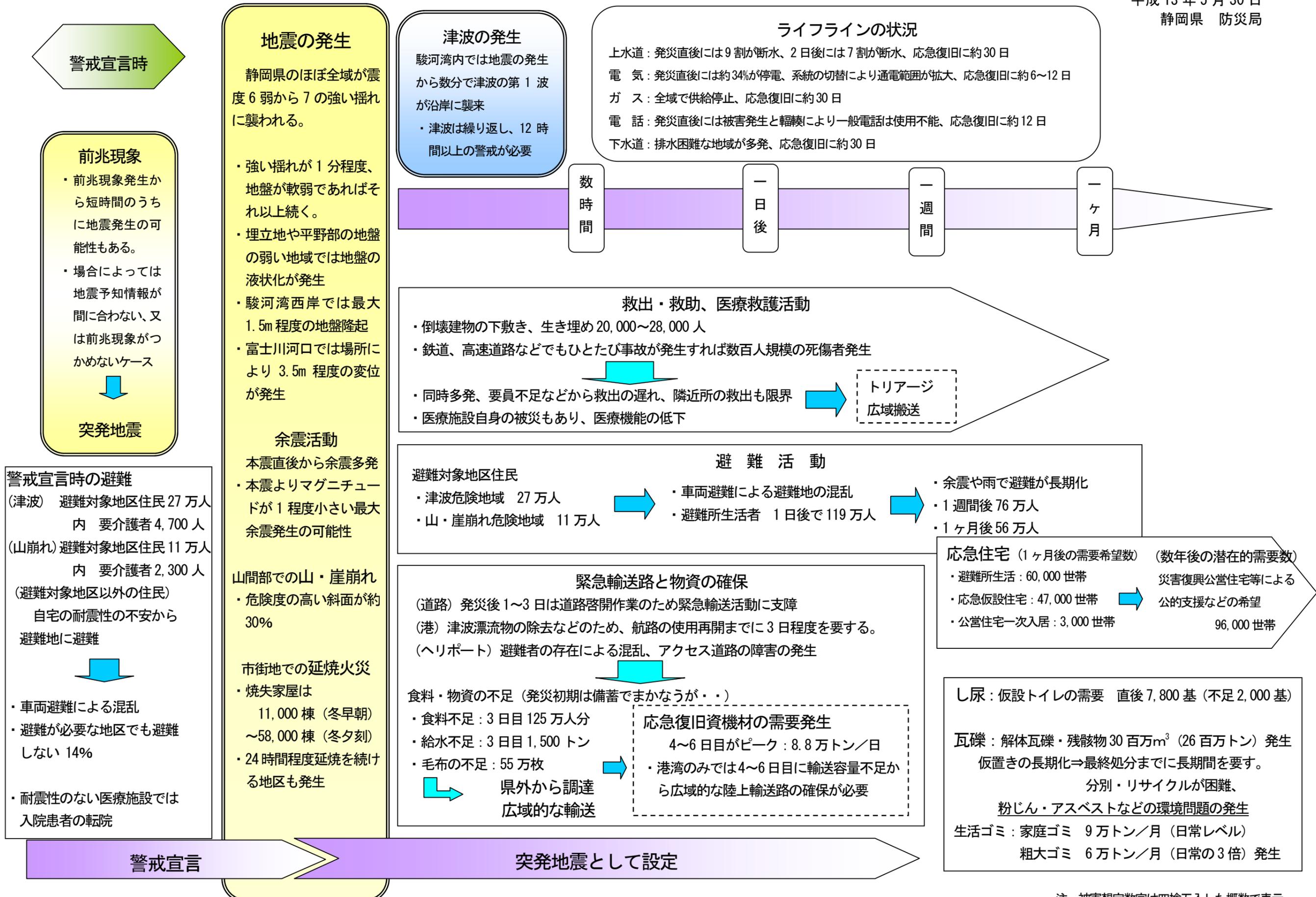
**地震火災**

阪神・淡路大震災の最新の地震火災の知見を反映  
⇒出火要因の見直し

注：被害想定数字は四捨五入した概数で表示

# 東海地震による被害発生と応急対応のシナリオの概要

平成 13 年 5 月 30 日  
静岡県 防災局



注：被害想定数字は四捨五入した概数で表示